

平成21年4月20日

各 位

会社名 株式会社 構造計画研究所
 代表者名 代表取締役社長 服部 正太
 (JASDAQ・コード4748)
 問合せ先 代表取締役副社長 阿部 誠允
 電 話 03 - 5342 - 1141

平成21年6月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成21年6月期(平成20年7月1日~平成21年6月30日)の業績予想について、平成20年8月18日付当社「平成20年6月期 決算短信(非連結)」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせ申し上げます。なお、配当予想につきましては変更ありません。

記

1. 平成21年6月期通期業績予想の修正(平成20年7月1日~平成21年6月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成20年8月18日発表)	11,700	1,400	1,320	630
今回修正予想(B)	10,500	750	670	300
増減額(B-A)	1,200	650	650	330
増減率(%)	10.3	46.4	49.2	52.4
(ご参考)前期実績 (平成20年6月期)	11,322	1,242	1,169	531

2. 修正が生じた理由

平成21年6月期通期業績につきましては、国内外における景況感が急速に悪化し、当社を取り巻く環境も厳しさを増す中で、全社的に受注が伸び悩んでいることに加え、特に、システムソリューション事業において複数の不採算プロジェクトが発生するなど厳しい状況となっております。その厳しい状況の中、受注面においては、顧客との信頼関係や成果物の品質を重視する当社にとって、そのリカバリーへの注力を余儀なくされたことによる受注機会損失の影響が想定以上であったこと、利益面においては、一部のプロジェクトにおいて手戻り作業や当初見積の作業工数を大幅に上回る事態となりましたことから、今後の顧客交渉や原価低減・生産性向上努力を継続いたしますが採算悪化が避けられない状況となっております。その結果、誠に遺憾ではありますが、引き続き最大限の努力を続けているものの、売上高、利益ともに当初見込みを下回る見通しとなりました。

不採算プロジェクトが発生した要因といたしましては、全般的な投資抑制傾向に伴い、顧客からの減額要請とともに、受注のリードタイムが長期化する一方で、案件単位での規模縮小や短納期化していること、技術の複雑化・高度化等を背景とした顧客ニーズと当社の技術力や条件とのミスマッチ、過去納品物に対する不具合対応等が挙げられますが、不採算プロジェクトの発生を未然に防止するために、既に執行役員によるトラッキングを進めているほか、品質および生産性の向上を図るための品質マネジメントシステムの継続的な改善、外注費や諸経費の適正化に必要な施策を実施してまいります。

以上